

令和4年度 学校評価まとめ

柏市立名戸ヶ谷小学校

根拠法令

- ・小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を公表するものとする。(学校教育法施行規則 第66条)
- ・小学校は、自己評価の結果をふまえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く)による評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。(学校教育法施行規則第67条)

1 ねらい

- ・学校教育目標、重点目標の達成状況、達成に向けた取組の適切さについて、自己評価、関係者評価をすることで組織的・継続的に学校、地域、家庭を改善を図る。
- ・結果の公表と説明により、適切に説明責任を果たし、学校・地域・家庭の連携結びつきを強くする。
- ・評価により、具体的な対策・改善をして、一定水準の教育の質の保証をする。

2 評価対象および回収率

- ・教職員・・・24名 24回答 100%
- ・児童・・・400名 382回答 95.5%
- ・保護者・・・305名 327回答(児童1名につき1回答を依頼) 85.6%

3 実施日

月 日	内 容	担当	備 考
11月21日(月) ～12月2日(金)	児童アンケート実施 教職員アンケート実施	各担任 教頭	※児童はタブレット 端末を活用
12月2日(金) ～18日(日)	保護者アンケート実施	教頭	Forms を活用

4 結果 (詳しくは、別紙グラフ参照)

- ・学校生活
児童・保護者・教職員ともに90%以上が学校生活を楽しく送っていると回答
特に、昨年と比べ児童・保護者が5ポイントの上昇
- ・授業
すすんで学習しているとの児童の回答が86%。保護者の主体的に学習しているが80%。特に、保護者の肯定的な回答が昨年に比べ10ポイント上昇
- ・読書
本を読むことは好きと79%の児童が回答で昨年と変わらない
保護者や教職員は読書について6～8ポイント低下
- ・家庭学習
88%の児童が宿題や自主学習に取り組んでいると回答
特に、昨年から児童8ポイント・保護者8ポイント・教職員11ポイント上昇

・いじめ対策

91%の児童が友達と仲良くし、いじめや悪口など人のいやがることをしていないと回答し昨年から8ポイント上昇

保護者も学校はいじめのない学校づくりに努めているが95%で7ポイント上昇。教職員もいじめのない学校づくりに努めているが100%（昨年度も100%）

・体力向上

児童は92%が体育の授業にすすんで取り組んでいると回答し3ポイント上昇。

特に、保護者は体育の授業や部活動等での体力の維持に関してそう感じるが91%で15ポイント上昇。

・社会規範

児童は、決まりを守って生活しているが93%で1.5ポイント上昇

教職員は学校や社会の決まりを守るよう指導しているが100%

・安全

児童は、94%が安全に気を付けて生活していると回答。特に、保護者の98%が学校は、不審者や事故の防止等に取り組み、安全を確保していると回答し昨年より7ポイント上昇

・教育相談

児童は、89%が自分の話を親や先生、友達に聞いてもらっていると回答し昨年より5ポイント上昇。特に、保護者は96%が学校は子どもの悩みや保護者の相談に十分応えていると回答し、昨年より12ポイント上昇

・保健

児童は、93%が手洗いや健康観察をきちんと行っていると回答。保護者も100%が、子どもへの手洗い・マスク着用の励行や健康観察等により、感染対策に努めていると回答

・情報発信

学校は教育方針や子どもたちの様子をたよりやHP等を通して伝えているが5ポイント上昇し、97%

・地域連携

教職員のための質問で、地域やPTAと積極的に連携して教育活動にあたっているが75%と昨年より25ポイント低下

5 関係者評価から（学校運営協議会委員より）

- ・学校全体の評価は概ね良好である。但し、この3年間のコロナ禍で、教育がどう変化し、どう影響を受けているのかを長期的な視点で評価する視点もほしい。
- ・学校の普段からのきめ細やかな指導と見守り活動で、地域の問題も少ないと感じている。一つ気掛かりなことは、感染症対策としてマスクを登下校中もつけているからなのか、挨拶が少なくなっていることである。
- ・若干ではあるが、否定的な回答をしている児童もいる。児童が前向きな気持で様々なことに主体的に取り組めるよう、引き続き指導にあたってほしい。
- ・子ども、先生方も、名戸ヶ谷小が好きだという気持ちが伝わるアンケート結果である。安心して学校に通わせることができる環境が整っていると感じる。

6 分析

児童の93%が学校生活を楽しく過ごしていると回答していることや、保護者の98%が学校は一人一人を大切にされた教育を行っていると感じるとの回答から、名戸ヶ谷小学校が保護者からの信頼を得ながら教育活動を行っていることが伺える。

また、いじめ対策では、児童が友達と仲良くし、いじめや悪口などひとのいやがることをしていないとの回答が昨年より8ポイント上昇し、保護者も学校はいじめのない学校づくりに努めているが7ポイント上昇している。これは、教育相談の項目での児童が自分の話を親や先生・友達に聞いてもらえてるの5ポイント上昇や保護者の学校は子どもの悩みや保護者の相談に十分応えているの12ポイント上昇が下支えしており、児童や保護者の不安や悩みを早めに察知し、細やかに対応していることがいじめの早期発見、早期対応につながっているからだと思われる。

体力向上に関しては、新型コロナウイルス感染症のまん延が周期的にあり、体育館や校庭での体育的な運動に影響を及ぼす面があった。児童は今年の体育の授業にはすすんで取り組んでいるとの回答が92%で、昨年より3ポイント上昇したが、部活動や体育的行事の復活が部分的であれ進んだことに、保護者が体力維持に15ポイントの上昇を回答していることと深い関係があると思われる。保護者の、児童の運動を制限なく行えることへの高い期待感が伺える。

家庭学習では、88%の児童が宿題や自主学習に取り組んでいると回答し、特に、昨年と比べると児童が8ポイント、保護者が8ポイント、教職員が11ポイント上昇している。

これは、教職員が宿題や自主学習を推進していることが児童に広がり、家庭学習が定着してきた児童の増加を保護者も感じていることからであろう。引き続き指導していきたい。

読書活動に関しては、本を読むことは好きと79%の児童が回答し、昨年と変わらない。保護者や教職員は読書については6～8ポイント低下しており、保護者の目からは子どもが本を読むことが家庭では減少しており、また教職員も読書や学校図書館を活用した授業の取り組みが減少していると感じている。MMGや校内研修等があり、読書や学校図書館を活用した授業実践に時間が十分とれなかった実情も考えられる。効果的な図書の利用や読書習慣の指導も進めたい。

地域連携では、教職員のみで、地域やPTAと積極的に連携して教育活動にあたっているが75%と、昨年より25ポイント低下した。新型コロナウイルス感染症の収束収を見据え、どのような形で地域やPTAと連携・協力をし、どのような協働が図れるのかを模索する必要があるだろう。

今年の新しい質問として、児童に対して「人の話をきちんと聞いていますか」を加えた。児童のみの質問で、今年度の本校研究で「話し合い活動と体験活動」に重点を置いて取り組んでおり、その話し合い活動での聞く力を測りたい思いから加えた質問である。

結果は95%が聞いていると回答しており、「自分の話を聞いてもらえていますか」の質問に89%が聞いてもらえているとの回答をしていることを考えると、人の話を聞いていることの方が、自分の話を聞いてもらえているよりも多いと感じていることが分かる。

今回の調査から、教師のいじめを早期に察知し指導している姿や、保護者との細やかな連絡や相談の積み重ねが、学校への信頼を高め、児童の安心した学校生活につながっていることが分かる。

引き続き、学習習慣づくりや体力の向上を広めつつ、児童にとって魅力ある授業づくりや支え合う人間関係づくりに取り組んでいきたい。